

教室でできる「関係づくり」の 具体方策ワン・ツー・スリー

～出版記念講演会を振り返る～

講演を振り返り、学校が「一枚岩」になって進める
「関係づくり」をまとめてみました。



名城大学大学院 大学・学校づくり研究科教授
教職センター教授 教職センター長

曾山 和彦

そやま かずひこ*群馬県桐生市出身。東京学芸大学卒業、
秋田大学大学院修士課程修了、中部学院大学大学院博士
課程修了。博士(社会福祉学)
東京都、秋田県の養護学校教諭、秋田県教育委員会指導
主事、管理主事、名城大学准教授を経て現職。学校心理
士。ガイダンスカウンセラー。上級教育カウンセラー。学校に
おけるカウンセリングを考える会代表。

著書に「時々、「オニの心」が出る子どもにアプローチ 学校が
するソーシャルスキルトレーニング」、「時々、「オニの心」出
る子どもにアプローチ2 気になる子に伝わる言葉の「番付表」
(明治図書)、「教室でできる特別支援教育 子どもに学んだ
「王道」ステップ ワン・ツー・スリー」(文芸春秋)、編著書に「気
になる子への支援のワザ」(教育開発研究所)、「特別支援
教育に生かせるカウンセリング」(ぎょうせい)、ほか多数。

平成28年2月28日(日)の午後
1時～3時半、名城大学を会場に、
「学校と創った 教室でできる関
係づくり」「王道」ステップ ワン・
ツー・スリーⅡ」の出版記念講演会
を開催しました。休日にもかか
わらず、約130名の先生方のご
参加をいただき、本当に嬉しく思
いました。また、講演後の感想ア
ンケートには、あらためて「関係づ
くり」に関し、大切にすべきこと、
課題として心に留め置くべきこ
と等の示唆をいただきました。
本稿では、それらを整理しなが
ら、出版記念講演会を振り返っ
てみます。

1 ステップ1 学校が「一枚岩」に なるために

愛知県刈谷市立依佐美中学校
の公開研究会(平成26年10月)
を終え、全教師に対するアンケ
ー調査の結果から見えてきた「二
枚岩」になるための5つの柱は資
料1の通りです(経過はh i t o *
y u m e 21号に詳しい)。

この提言に関する参加者の声
としては次のようなものが挙
がりました。

●子どもたちを育むために、
「やはり学校を挙げて取り組
まねば…」と、今日のご講演を
お聴きして強く思いました。
(小学校校長)

●「一枚岩」になって取り組む
が、私のキーワードになりました。
たった2時間半だけ出会う
たグループの方々とかかわり
を通じ、このように気持ちを一

資料1

ステップ1:学校が「一枚岩」になるために

依佐美中全教師アンケート結果から見えた5つの柱

- 常に「チーム依佐美」を意識づける
- 管理職&ミドルリーダーが自ら「してみせる」
- やると決めたことは全員で徹底する
- 目的達成の手段(よさっぴタイム)は「シンプル・おもしろい・ためになる」ものにする
- 外部専門家を活用する

大規模校にもかかわらず、「一枚岩」を創り上げた先生方は「教育のプロ」!

つにして実践に取り組めば、子どもたちはきっと変わるし、学校も変わるという気持ちになりました。(小学校教諭)

●「学校が一枚岩に」これやりたいです。是非、曾山先生に本校に来ていただきたいです。(小学校教諭)

●今の学校は「一枚岩ができていないなあ」と痛感しました。これから皆で力を合わせてやっていきます。(小学校養護教諭)

2 ステップ2 「関係づくりの 火花」を 打ち上げる

教師と子ども、子ども同士の関係づくりを促すために、まずは「関係づくりの火花」を打ち上げる必要性があること。そして、その火花がよりよい「火花」となるには5つの条件を揃えることよいことを、依佐美中の実践「よさっぴタイム」から提言したものが左の資料2です。なお、よさっぴタイムの概要は、資料3です(具体的な活動はh i t o * y u m e 20号に

資料2

ステップ2:「関係づくりの火花」を打ち上げる

よりよい「火花」の5条件

- 短時間の活動であれ
- ルールと型が徹底された活動であれ
- 繰り返し行える活動であれ
- 友だちとのかかわりを楽しめる活動であれ
- 教師自身も楽しめる活動であれ

5条件を満たす「よさっぴタイム」

資料3

最高の打ち上げ花火「よさっぴタイム」

- ソーシャルスキル・トレーニングと構成的グループ・エンカウンターのねらいを統合
- 毎週1回、月曜日5限開始前の10分間活動
- ルールは3つ:「お願いします&ありがとう」「頷いて聴く」「指示をしっかり聴く」
- 4人グループでの活動が基本

子どもは遊ぶのが如く…でも、私は遊んでいない

詳しい。
この提言に関する参加者の声としては、次のようなものが挙げられました。

●エンカウンター等を取り入れている学級は多くあります。私もそうでした。でも、なぜかしっくりこないことが多かったのです。それはアクティビティをやらせることがばかりで、ねらいの伝え方が弱かったり、発達段階等に適したものでなかったり…ということが理由だったと気づきました。(教委指導主事)

●「アドジャン」はあらためていい演習だと思いましたが、携帯電話やゲームが普及してあると「人と話をすることって楽しい」「自分の話を聞いてもらうと嬉しい」と思えるよ

うな気がしました。子どもにソーシャルスキルが定着し、このようない雰囲気の中で学習することが、子どものアクティブラーニングを生み、さらに高い学力につながっていくのだと思いました。(特別支援学校教頭)



講演風景

